

文部科学省 大学教育・学生支援推進事業(大学教育推進プログラム)選定プロジェクト 高大接続教育の実践的プロジェクトーカリキュラム・トランジション・センターの構築と活用ー

(実施期間:平成22年度～24年度)

「大学教育推進プログラム」について

「大学教育推進プログラム」(平成21年度～)は、全国の大学等で行われている「学士力の確保や教育力向上のための取組」の中から、明確な達成目標を掲げ、十分な効果が見込まれるものを選定し、国が重点的な財政支援を行うことで、日本全体の高等教育の質保証の強化に資することを目的とした事業です。

文部科学省によるこのプログラムの公募に対して、秋田大学は「高大接続教育の実践的プロジェクト」を申請し、平成22年度に選定されました。

「CTC」とは？

「高大接続教育の実践的プロジェクト」では、高校と大学の教育課程の接続性を高めるための教育実践研究を、高校教員と大学教員の協働により展開していきます。特に、学生・生徒の「未修得」状況に焦点を当て、教員間の情報交換や新たなテキストやテストの開発を通じ、初年次生が着実に大学での学修に取り組めるように支援していきます。

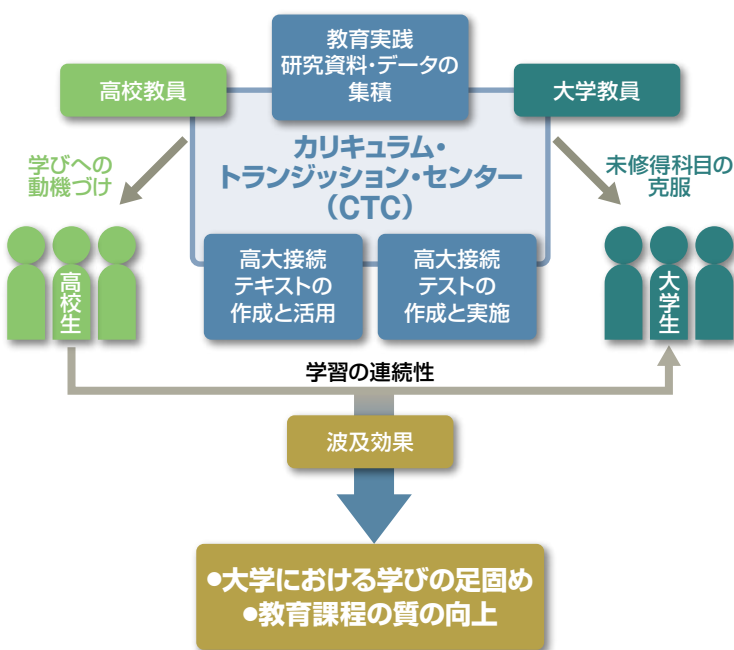
この活動を支える機関が「カリキュラム・トランジション・センター」(略称:CTC)です。CTCは、大学と高校が協働して高大接続に取り組む場です。高大接続事業は教育推進総合センターとの連携のもと、高校教員と大学教員が協議しながら推進していきます。

取組の概要

CTCでは主として以下の事業を展開します。

1. 高大接続テキストの編集
初年次の学生が、高校までの授業内容のなかで「未修得」のままになっている部分の確認やその復習を自分でできるように、高校での学習内容と大学で展開される学問のつながりを確認できる高大接続テキストを、高大教員が協働で編集します。
2. 高大接続確認テストの作成
初年次の学生が大学での学びに必要な基礎知識を習得しているかどうかを確認できるように、高大接続確認テストを、やはり高大教員が協働で作成します。
3. eラーニングの導入と共同オフィスアワーの運営
初年次の学生が、自ら「未修得」状態を修復し、着実に専門課程に入っていけるように、リメディアル教材を学べるeラーニング・システムを導入し、管理運営します。また、教員だけでなくティーチング・アシスタントなども活用した共同オフィスアワーを運営します。

その他、高大接続に関わる資料の収集とデータベース化やホームページの運営、また、高大教員の情報交換の場や相互の授業参観の設定を行います。



高大接続テキスト等編集委員会の様子 (平成22年12月)



平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラムへの参加 (平成23年1月)

〈CTCホームページ〉

<http://www.akita-u.ac.jp/ctc/>